

「環境情報科学」執筆要領

1. 適用

この要領は、「環境情報科学」に投稿しようとする原稿の執筆に適用する。

2. 原稿の体裁と分量

- ・原稿はワープロなどを使用し、任意の A4 用紙（刷り上がりは B5 版に縮小される）を用い、別紙見本の指定に従い、完全版下原稿を作成する。
- ・原稿のうち本文に関しては 1 ページ＝1 行 25 字×46 行×2 段組で仕上げる。

3. 原稿の内容と構成

- ・本文の 1 ページ目に、表題、著者名、欧文表題、欧文著者名、邦文要旨（300 字以内）、邦文キーワード（6 個以内）、欧文要約（150 語以内）、欧文キーワード（6 個以内）、また同頁の脚注に所属機関名を記載する。なお所属は、大学・学部・学科、会社名・部・課などのように 3 項目以内とする。職名は記載してはならない。
- ・本文の最終ページに、補注、文献リストを記載する。
- ・図・表・写真のキャプションの番号は図 1，表 1，写真 1 などと表す。
- ・行番号ならびに頁番号を記載する。

4. 本文

- ・本文の見出しは、1. ……，1.1 ……，1) ……，(1) ……，① …… という順序に統一させ、はじめに、おわりに、には数字をふらない。
- ・研究論文、総説および報告（以下、論文等とする。）に関しては、査読を行うため、本文中に著者が特定できるような表現は避ける。また、謝辞に関しても、本文には記入せず、スペースのみを確保する（採用が決定した際にあらためて記入する）。
- ・常用漢字、新かなづかいによる。代名詞、副詞、接続詞、助動詞、助詞はできるだけかな書きにする。

例：我々→われわれ，次第に→しだいに，但し→ただし，…出来る→…できる，…
易い→…やすい，様々→さまざま

- ・数字は原則としてアラビア数字を用いるが、以下にならう。
 - ・文中で使う一般数字は、万、億などの単位語をあわせて用いる（1 万 2345 人など）。
 - ・図表など数字のみを並べて用いる場合は、3 桁ごとにコンマ（,）でしきる。
 - ・熟語、成句は漢数字で書く（第三者など）。
 - ・分数の表記は「3 分の 2」などとせず、「2/3」とする。
- ・単位記号はかたかなではなく、記号で表記する。

例：センチメートル→cm

- ・生物の学名、記号などのイタリック体表記はアンダーラインで指定する。

- ・本文中で補注を必要とする場合には、1), 2), …n)の記号で本文該当箇所の右肩に明示する。
- ・本文中の文献引用は、著者の姓（まぎらわしいときには名を併用）、発表年を書く。
例：・田中（1989）は……，中村（1991a）によれば，
・……と考えている（田中・中村，1992）
・Yamasaki *et al.*（1986）は……，
・Yamasaki and Maeda（1993）は……，

5. 図・表・写真

- ・図表は、完全版下を当該位置にそのまま貼付すること。なお、本版下はB5版に縮小されるので、その場合にも十分判読できるものにすること。コンピュータを用いて作成した図表等は鮮明な原本に限る。
- ・図表の細部や文字は縮小されるので、B5版に縮小されても文字が読み取れるように作成する。なお、薄い網掛けや、微細な線（地図の境界線など）を使用する場合は、印刷時にインクがのらず判別できなくなる可能性があるため、注意すること。
- ・タイトルについては、表は上、図と写真は下に、それぞれ連番をつけて入れる（表1、図1、写真1など）。
- ・図表・写真は、頁の天地に寄せて割り付ける。文章と文章の間に図表をはさまないこと。また、図表・写真の幅が片段枠内におさまりきらない場合は、両段幅一杯に割り付け、図表・写真が本文段落内にはみださないようにすること。

6. 補注・文献リスト

- ・補注は文献リストの前一括掲載する。
- ・インターネット上の情報を引用する場合には補注として扱い、著者またはホームページ作成者・運営者名、最新更新日、記事のタイトル、URL、参照時の年月日を明記する。
例：(社)環境情報科学センター（2002.4.30更新）環境家計簿．CEIS ホームページ
<<http://www.ceis.or.jp>>, 2002.10.20 参照
- ・文献リストに掲載する文献は、本文中に引用した文献に限る。著者名のアルファベット順に下記の記載形式にしたがって記載する。同じ著者のものは年代順に並べる。同じ著者の同一年のものは、引用順に（1994a）などのように、a, b, c……を付して並べる。
 - ・雑誌中の論文の場合：著者名（発表年）論文名．掲載雑誌名（外国雑誌名はイタリック体にする）、掲載巻号（巻がなく号だけのものはNo.6のように書く）、掲載ページ最初～最後。
例1：石田頼房（1992）環境からみた都市計画と今後の展望．環境情報科学, 21(4), 2～6.

例 2 : Sugimura, K., F. Yamada and A. Miyamoto(2003) Population trend, habitat changes and conservation of the unique wildlife species on the Amami Island, Japan. *Global Environmental Research*, No.7, 79～89.

- ・単行本の場合：著者名（発表年）書名．出版社名，出版社所在地，総ページ数．

例 1 : 松井 健（1991）応用地理学ノート．朝倉書店，東京，216pp.

例 2 : Takacs, D. (1996) *The Idea of Biodiversity: Philosophies of Paradise*. The Johns Hopkins University Press, Baltimore and London, 393pp.

- ・編著図書あるいは論文集の中の論文の場合：著者名（発表年）論文名．『書名』（編者名），掲載ページ最初～最後，出版社名，出版社所在地．

例 1 : 吉良竜夫（1974）生態学とエコロジー．『環境科学の方法と体系』（沼田 真編著），pp. 63～82，環境情報科学センター，東京．

例 2 : Nicholas, V., L. Brokaw and R. A. Lent(1999) Vertical structure. In: Hunter, M. L., ed., “Maintaining Biodiversity in Forest Ecosystems”, pp. 373～399, Cambridge University Press, Cambridge, UK.

7. その他

- ・書評もしくは翻訳紹介については，その対象となった書籍の著者または編者名，書名，発行所名，発行所電話番号，総ページ数，定価，発行年を見出しとして付記する。文末に執筆者（書評者・翻訳者）の氏名・所属を記載する。
- ・質疑応答については，その対象となった論文等の著者，発表年，論文等のタイトル，掲載巻号，掲載ページを見出しとして付記する。

付則：

- (1) 本要領に改訂の必要が生じた場合，編集委員会および学術委員会が審議して変更し，理事会に報告する。
- (2) 論文審査委員会は学術委員会に改訂を要望することができ，また編集委員会と学術委員会における審議には求めに応じて協力する。